

実施日 平成十五年 十月 十七日(金) 実施クラス(普通科) 1年 D組(男子40名)

指導者 八代 敬一

科目名	国語 総合(古典分野)	指導領域	C「読むこと」
単元名	五 詩歌 『奥の細道』 「平泉」	教材名	教科書名 『精選国語総合』(東京書籍) 「教材名」 『奥の細道』 「平泉」

指導事項 C ウ 「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。」

単元の目標

- 1 俳諧を読み味わい、読解力・鑑賞力を高めさせる。
- 2 音読を通して韻文的リズムの快さを感じ取らせる。
- 3 俳諧紀行文を通して俳諧の理解を深める。
- 4 俳句に表れた芭蕉のものの見方、感じ方、考え方を深めさせる。
- 5 俳諧に表れた芭蕉の心情を解釈させる。

評価観点と  
評価規準

- ア「関心、意欲、態度」・・・
- 1 積極的な姿勢で発言できる
  - 2 他人の発表を聞く姿勢ができている
  - 3 十分な下調べを経て課題プリントに取り組みることができる
- イ「読む能力」・・・
- 1 正しく音読し、韻文的リズムを感じ取ることができる
  - 2 古語を理解し、適切に口語訳して作者の主張や状況を伝えられる
- ウ「知識・理解」・・・
- 1 俳句に触れ、作者の心情を掴むことができる
  - 2 文法事項や文学史などについての補助的説明の理解ができている(補助プリントの整理)

年間指導計画に  
おける位置付け

『伊勢物語』の学習を通して、和歌への関心・理解を深めさせた直後であり、本単元においては俳諧を扱うことに関心・理解を一層高める。後に学習する「唐代の詩文」にもつながる教材でもある。

単元の  
指導計画

- 一時間目・・・「漂泊の思ひ」(第一段落)
- ・ 『奥の細道』について知っていることの発表・補足説明・不明な事項を各自調べさせる
  - ・ 音読を通して俳文の調子にふれる・対句、掛詞、縁語的な表現に注意させる
  - ・ 出立する直前の芭蕉の心情を文章から読み取り、俳句の解釈をさせる
- 二時間目・・・(本時) 平泉を訪れた芭蕉はどのような光景を目にしたのか、どのようなことを感じたのか、読み取らせる。
- 三時間目・・・「漂泊の思ひ」(第二段落)
- ・ 前時の学習した修辭法の確認
  - ・ 出立した折の芭蕉の心情(感動)を文章から読み取り、俳句の解釈をさせる。
  - ・ 次時の予習として、平泉について知っていることの発表・補足説明
- 四時間目・・・「平泉」(第一段落)
- ・ 前時で読み取ったことの確認
  - ・ その後、芭蕉が目にしたものを通じてどのようなことに感動したかをあそび、俳句の解釈をする。
  - ・ 芭蕉は、人間の言みについてどのようなことを考えているのか文章でまとめさせる。
- 五時間目・・・「立石寺」
- ・ 立石寺について知っていることの発表・補足説明
  - ・ 特に心地よいリズムを感じ取らせるために繰り返し音読
  - ・ 俳諧を読み味わい、読解力・鑑賞力を高めさせることの意味として、芭蕉の感動を読み取り俳句の解釈をさせる

本時の目標

- ・ 音読を通して俳文の調子に触れる。
- ・ 平泉を訪れた芭蕉はどのような光景を目にしたのか、どのようなことを感じたのか読み取らせ、更に俳句の解釈をさせる。
- ・ 「ゆ」の識別の方法を再確認させる。

備考	本時の学習指導計画					
	まとめ	展開		導入	過程	
	次時の予告	要約	読解	読解	指導内容	
補助プリント配布	第一段落の内容を挿入してあげるよう指示	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一段落の簡単な要約をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「の」の句を解釈させる</li> <li>(その際 ポイントを指摘)</li> <li>「……落しはへる」の「ぬ」を文法的に識別させる</li> <li>(補助プリントも使用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「功名一時のくせむむらじやなぬ」とはこのよつなことを述べたものか、考えさせる</li> <li>「国破れて……」が杜甫の詩から一部転じながらも引用していることを確認させ、解釈させる</li> <li>(その際 ポイントを指摘)</li> <li>「の文より」「高館」からの眺望を本文に従い、読み取りさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に行った平泉についての歴史的理解の確認</li> <li>説の確認</li> <li>・範読</li> </ul>	指導者
	宿題として次時までには学習してあげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめて発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで読み取ってきたことを生かしながら解釈する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の指摘を参考に解釈、挙手により発表</li> <li>挙手により発表</li> <li>プリントの図を参考に解答し、発表</li> <li>プリント使用</li> <li>先の歴史的な説明から考え、挙手により発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挙手、発表</li> <li>音読み(一音読み)</li> </ul>	学習者
	ア3 十分に調べて課題に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ2 作者の主張を伝えられることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ1 俳諧に触れ、作者の心情を掴むことができる</li> <li>ウ2 文法事項の理解ができている</li> <li>ア3 調べたことを理解し、問題に取り組むことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ2 古語を理解し、状況を正しくつかむことができる</li> <li>イ2 古語を理解し、状況を正しくつかむことができる</li> <li>イ2 古語を理解し、状況を正しくつかむことができる</li> <li>オ2 補助的説明の理解を更に深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ1 歴史的仮名遣いを正しくよめる</li> <li>ア3 調べたことを理解し、発表することができる</li> </ul>	評価の規準と評価方法

第一段落

① 二代の榮耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。

《口語訳》藤原氏の三代の榮華は一睡りの間のことのようにであり、大門があつた跡は（ ）（ ）kmほどこちらへ続いている。

【確認】傍線部「一睡のうちにして」の説明

説明	
1何が	2何のよつち
3何のよつち	

② 秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。

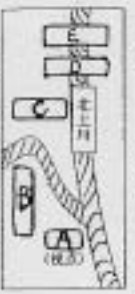
③ まづ高館に登れば、北上川南部より流るる大河なり。

④ 衣川は和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。

⑤ 泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐとみえたり。

《口語訳》泰衡らが住んでいた居城の跡は、衣が関の内こう側にあり、南部地方からの入り口を封鎖して、蝦夷の侵略を防いだと思われる。

【確認】□のA、Eを埋めよ。(①)②③④⑤のよつち部から選べ)



【解】 A ( ) B ( )  
C ( ) D ( )  
E ( )

⑥ さても義臣すくつてこの城にこもり、功名一時のくさむらとなる。

《口語訳》それにしても、（ ）が忠義ある家臣を巡りすくつて、この（ ）に立てこもつて、

奮戦したにも関わらず、

□

⑦ 「国破れて山河あり、城春にして草青みたり。」

《解釈》

□

⑧ と笠打ち敷きて、時の移るまで、涙を落としはべりぬ。

《口語訳》と、笠を敷いて膝を下ろして時間が経つのも忘れて、

□

⑨ 夏草や兵どもが夢の跡 (夢の内容も考える)

《解釈》

□

【確認】

季節	季節
□	□

⑩ 卯の花に兼房みゆる白毛かな 曾良

《解釈》

□